

3年生学年だより

豊中市立第五中学校 2021年3月5日(金) No.50



67期 人権聞き取り学習『夢バトンの継承 ~今、五中生に伝えたいこと~』

~生徒の感想~ から

◆ 聞き取り学習の話を聞いて、感じたことや新たに疑問に感じたことなどを書きました。

- 実際に同じ地域で育ってきた先輩の話を聞いて、もっと自分事として考えようと思った。「人に差別はしないけど、自分がそうなるのはイヤ。」ということも立派な差別だと感じた。
- 今まで自分たちが学んできたことを思い出してちゃんと行動すれば、きっと差別に立ちむかうことができると思う。自分たちが学んできたことは全く無駄ではなかったんだなと強く思った。
- 部落差別でつらい思いをしている人がいるということを知って、部落差別についてももっと考えていきたいと感じた。
- ありのままの自分で生きるためには、差別はなくさなければいけないと聞いて、「差別はいけない」と声に出して言うべきだと思った。
- この学年は、すごく友だち思いの人が多と思う。なので、本当に差別なんかあるのだろうか、疑問に感じていたが、話を聞いている中で社会では、本当に起こっているということを改めて実感した。
- 友だちと一緒に、部落差別をなくしていけるようにしていこうと思った。
- 普段、周りの目を気にして、相手にできるだけ合わそうとして自分らしくいられない場面もあるなと思った。
- 今この学校生活では本当の自分を押し殺し、周りの人に合わせながら生きている。本当に心を開いている人は、数人しかいないので、みんなに心を開けるように頑張る。



- いまだに苦しんでいる人のためにも、正しい知識をしっかりと取り入れようと思った。
- 「無関心」ほど怖いものはないと思った。
- 自分らしく生きることの大切さを感じた。みんなそれぞれにいろんな事情があって、つらい思いをしていることがわかった。



- 自分の行っている中学校が、人権教育の多いところで良かったと思った。
- お話が心に突き刺さった。差別は現在、自分の周りで実際に起きていること、差別はしてはいけないということ、差別をもしされても自分一人でかかえる必要はなく仲間がいるのだということを改めて学んだ。
- 苦しくても自分らしく生きようと差別に負けず自分をわかってもらおうとする人はすごい。そういうふう強く生きている人たちはすごく尊敬できると感じた。

◆ 今までの人権学習から、卒業後どんなことを大切にこの校区で生活していきたいかそれぞれに思うことを書きました。

- 部落差別が原因で結婚できなくなった話を聞いて、とても心が痛くなった。今後、このようなことで悲しむ人が一人でも減ってほしいと思った。
- 悩んでいる人がいたら、寄り添ってられる人でありたい。
- 自分の知らないことを正しく知ろうと思った。
- 五中でくわしく勉強できたし、人権学習もたくさんしてきたから、いろいろな方から学んできたことを無駄にしないよう、人を大切にできる人でいたい。
- 何があっても差別やいじめはいけないし、差別やいじめをしてもいい雰囲気をつくることもよくないと感じた。
- 差別やいじめ、それにつながる偏見をもつ人がいたら、声を挙げてそれは間違っていて、いけないことなんだということを伝えていきたい。
- 差別をするような世代は、僕らで終わらせる。
- 誰に対しても、平等に接することを大切に生活していきたい。



- つらい思いをしている人がいたら、味方になってあげたいし、つらい思いをしている人が少しでもなくなるような将来にしたい。
- 卒業して、新しい環境で自分がかみごになったら、中学校の時に仲の良かった友だちに相談することが大切だと思った。
- 一人ひとり出会う人々を大切に、これからもこの校区で生活していきたい。どんなことがあっても支え合っていけるような仲間づくりをしていきたい。
- どんな人でもお互いに助け合い、地域でもっと協力していき、地域の中で笑顔で過ごせる人が増えたらいい。これからも、五中生一人ひとりが人権を意識して生きていくことが大切。
- この校区でも、豊中の町でも、他県で過ごしていくうえでも差別やいじめを受けている人に人生の中で出会うことは少なくないかもしれないけれど、悩みを聞いてくれる人、支えてくれる人が隣にいただけで、心がとても軽くなる。だからこそ、五中で学んだことを忘れずに、『誰かを救える』そんな人でありたい。そうやって、生きていこうと思った。
- ここで育つことができたからと思えるように支えたいし、支えてもらいたいと思う。「関係ない」や「知らない」といった冷たい言葉は絶対に言いたくないと思った。
- 差別は良くないことだと分かったのは、小学校のとき以上に五中の授業で学ぶことができたから。卒業まであと少しだけど、なかまの中に悩んでいる人がいたら、一緒に考えていきたいと思った。
- これからも差別について考えていこうと思う。みんなが差別について考えられたり、ダメだと思えたりするような雰囲気をつくるのが大切だと思う。
- 児童館の下の階（現・人権平和センター豊中2階）で悩みを相談できることを初めて知った。
- 問題があったときに知らないふりをせず、何かすごく小さなことでも行動できるようにになりたい。

○ 自分は、この豊中にずっといたいと思う。豊中は、友だちや自分のことをよく知っている人がたくさんいるし、環境もいいのでこの豊中にずっといたいと思った。

○ 卒業後、中学校の友だちとのつながりは、もしつらいときや悲しいことがあったときはいつでも相談しあえるような関係を続けていきたい。この校区に帰ってきたとき、ほっと安心できる『ふるさと』のような存在にしていきたい。下の学年の生徒たちにも、この校区を大切にすごして行ってほしいと思う。



今まで、たくさんの人権学習をしてきて、みなさんは、先輩から受け

継いだ『夢バトン』をにぎることができていますか？

差別に出会ったとき、自分だったらどうしますか？

五中以外の人にも、どうぞこの夢バトンを広げてください。夢バトンを受け継ぐ人やなかまが増えると『みんなが生きやすい社会』に近づくことでしょ。



さて、みなさんは、この町が好きですか？「私は、この町が好き。この町を誇りに思う。この町ですっと過ごしたい。住んでいたい。」と、思いますか？

一緒にすごした中学校やこの校区は、みんなとの大切な思い出がたくさんつまっている67期みんなのふるさとだね。

後輩へつなげる夢バトン。

五中の先輩からの大切なメッセージや思いを胸に、

卒業後も五中生だったことを『誇り』に夢バトンをにぎって進んでいこう。がんばれ67期生。



● 部落問題について、さらに知識や学びを深めるために、下記 HP を紹介します。なお、今回お話くださった酒井さん、重本さんは、とよなか人権文化まちづくり協会（人権平和センター豊中2階）に所属されており、相談にもものっていただけます。

- とよなか人権文化まちづくり協会 HP : <http://toyoin.secret.jp/>
- 一般財団法人大阪府人権協会 HP : <http://www.jinken-osaka.jp/>
- 法務省 HP 人権に関する資料など : http://www.moj.go.jp/JINKEN/index_shiryo.html

● もしも、悩みをかかえたときは、まず学校の先生や学校カウンセラーに相談しましょう。また、各 HP にも相談窓口があります。「誰にも言えずにつらい。」「どこに相談したらいいかわからない。」というとき、どうぞひとりで悩まないで相談ください。